

事務事業マネジメントシート (21年度実績と22年度計画)

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 25 日 作成  
 21年度決算把握後 平成 22 年 7 月 21 日 作成

事務事業名		財政計画進行管理事業					<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	総務企画部	課長名	中島 正剛
	施策	24	行財政改革の推進			所属課	財政課	担当者名	鎌野文昭
	基本事業	87	健全な財政計画の策定			所属班	財政班	(内線)	1232
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果	2
		1	2	1	5	—		コスト削減優先度評価結果	11
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 21年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始		事業期間		<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 年度)			
						<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 20 ~ 27 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・市総合計画に合わせ平成19年12月に策定した「財政計画」について、目標達成の検証するための進行管理を行う。 ・市総合計画に合わせ「財政計画」を平成19年12月に策定し、この計画に基づく予算編成を行うことから、進行管理を適宜する必要が生じた。 ・財政計画策定時(H19.12)と現在の状況(H21.3)では、日本全体の景気動向や道路特定財源の廃止といった国の税財政制度が変わってきている。
【業務の流れ】	※各年度決算(7月)→①数値比較及び要因分析(8月)→②再将来予測(基金及び市債残高)(9月)→④翌年度予算編成の基礎資料として活用(予算総枠提示(11月))→⑤当初予算編成(11月～1月)→⑥当初予算と財政計画の比較及び要因分析(2月)
【主な予算費目】	事業費予算はなし
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・H21.2月に住民の方から、「市債残高が今後増加していく中でどのように返済していくのか」旨の質問があった。 ・H21.9月議会で「市債残高の推移について」一般質問がなされた。 ・H21.3月議会で「今後の財政計画の見直しについて」一般質問がなされた。

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 21年度実績(21年度に行った主な活動)(DO)	22年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
※各年度決算(7月)→①数値比較及び要因分析(8月)→②再将来予測(基金及び市債残高)(9月)→④翌年度予算編成の基礎資料として活用(予算総枠提示(11月))→⑤当初予算編成(11月～1月)→⑥当初予算と財政計画の比較及び要因分析(2月)	前年度と同様 本年度に第2期総合計画が策定されることから財政計画についても見直しを図る
④活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標	(単位)
→ア:進行管理に要した日数	日
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	⑤対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)
財政計画(歳出予算規模)	→ア:財政計画での歳出予算規模 千円
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑥成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)
適正な算定を行うことで、財政計画の歳出予算規模どおり当初予算編成がされる。	→ア:当初予算額/歳出予算規模 %
*⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠 計画通りに進める必要があるため	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込
④ 活動指標	ア 日			30	30	30	60	30	30
⑤ 対象指標	ア 千円			15,345,294	15,336,000	17,373,179	14,870,000	14,901,000	14,901,000
⑥ 成果指標	ア %			100.4	100	88.3	109.6	100	100
投資 入 量	財源内訳	千円							
	国庫支出金								
	都道府県支出金								
	地方債								
	その他								
	繰入金								
	一般財源								
(A) 事業費計	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
(A)のうち指定経費	千円								
(A)のうち時間外、特勤	千円								
人件費	人			1	1	2	2	2	1
正規職員従事人数									
延べ業務時間	時間			240	240	575	500	500	250
(B)人件費計	千円	0	960	955	2,289	1,990	1,990	1,990	995
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	960	955	2,289	1,990	1,990	1,990	995

総トータルコスト 全体計画 20 ~ 27 年度
(期間限定複数年度のみ記載)
0
0
0
0

事務事業名	財政計画進行管理事業	所属部	総務企画部	所属課	財政課
-------	------------	-----	-------	-----	-----

## 2 評価の部 (SEE)

\*原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 ↷
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 ↷
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 ↷
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ↷ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 ↷
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 ↷
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 ↷
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 ↷	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 ↷

## 3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

財政計画書の策定時点(H19.12)と現在では経済状況等に違いがみられ、また、政権交代による様々な施策が実施されることから、平成22年度には財政計画自体を見直す予定である。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- 廃止     休止     目的再設定     事業統廃合・連携     事業のやり方改善(有効性改善)  
 事業のやり方改善(効率性改善)     事業のやり方改善(公平性改善)  
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

平成22年度には財政計画自体を見直す予定である。

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策